

- 問1 日本の中央部に位置し、標高が平均1100mを超える高原やフォッサマグナの影響で形成された盆地を持つ地域において、その気候的特徴を活かして行われている農業の説明として最も適切なものはどれですか。(2023年 東京都公立入試 類似)
1. 冬の温暖な気候を利用して、ピーマンなどの夏野菜を他の地域より早く出荷する促成栽培が行われている。
 2. 夏の涼しい気候を利用して、平地での出荷が少なくなる時期にレタスなどを出荷する抑制栽培が行われている。
 3. 水はけの良い扇状地を利用して、ごぼうなどの根菜類を一年中安定して出荷する施設園芸農業が行われている。
 4. 広大な盆地の平坦な土地を活かして、きゅうりなどの野菜を大規模に生産する企業的農牧業が行われている。
- 問2 富山市が、路面電車の軌道を環状化するなど公共交通の利便性を高める都市整備を行った背景にある、現代の日本が抱える課題に対応した街づくりの考え方を何とというか。(2024年 広島公立入試 類似)
1. 郊外の宅地開発を促進し、人口を分散させる「スプロール化」の推進
 2. 生活に必要な機能を公共交通沿線や中心部に集約させる「コンパクトシティ」の形成
 3. 工業地帯を中心市街地に誘致し、製造業を活性化させる「工業団地」の整備
 4. すべての道路を高速道路と接続し、自動車の移動時間を短縮させる「車社会化」の徹底
- 問3 川が山地から平地に出る場所では、流れの勢いが弱まることで、運ばれてきた土砂が堆積し、扇のような形をした地形がつくられます。山梨県の甲府盆地のふちなどに多く見られるこの地形を何といいますか。(2025年 青森県公立入試 類似)
1. 扇状地
 2. 三角州
 3. 台地
 4. カルデラ
- 問4 日本の都道府県別のお茶の生産量に関する統計において、国内生産量の約四割（39.6%）を占め、全国一位となっている都道府県はどこですか。(2017年 高知公立入試 類似)
1. 静岡県
 2. 鹿児島県
 3. 三重県
 4. 京都府
- 問5 富山市では、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを進めるために「富山ライトレール」が導入されました。この路線の利用者について、以前の移動手段を調査した統計では、かつてのJR富山港線を利用していた層は約46.8%に留まっています。この統計から読み取れる利用者の傾向として、適切な説明はどれですか。(2016年 長野県公立入試 類似)
1. かつてのJR富山港線を利用していなかった人が、自家用車からの乗り換えや新規の移動手段として、全体の3割以上も利用するようになった。
 2. 以前からJR富山港線を利用していた層が利用者の大半を占めており、自家用車から鉄道への乗り換えはほとんど見られない。
 3. JR富山港線の廃止に伴い以前の利用者がいなくなったため、現在は主に自転車や徒歩で移動していた層が中心となって利用している。
 4. 新規の利用者は存在せず、以前からバスを利用していた層がすべて鉄道利用に切り替わったことで利用者が維持されている。
- 問6 2019年時点の統計によると、静岡県の茶の栽培面積17,100ヘクタールのうち機械導入面積は10,194ヘクタールであるのに対し、鹿児島県は栽培面積8,430ヘクタールのうち機械導入面積が8,024ヘクタールに達しています。このデータから読み取れる、鹿児島県の茶栽培に関する説明として正しいものはどれですか。(2020年 広島公立入試 類似)
1. 栽培面積の大部分で機械化が進んでおり、生産の効率化が図られている
 2. 静岡県よりも栽培面積が広いいため、機械導入面積も全国で最大である
 3. 機械化が遅れているため、生産には多くの熟練労働者の手を必要としている
 4. 栽培面積に対する機械化の割合は、静岡県よりも低い水準に留まっている
- 問7 静岡県の牧之原周辺の地形図を確認すると、標高50mから100m程度の周囲より一段高い平坦な面が広がり、そこには一面に茶畑の地図記号が記されています。このような地形の名称と、そこで行われている農業の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2022年 群馬県公立入試 類似)
1. 台地での茶の栽培
 2. 盆地での果樹栽培
 3. 扇状地での稲作
 4. 干拓地での野菜栽培
- 問8 新潟県から静岡県付近にかけて本州を南北に縦断する、地面が大きく落ち込んだ溝のような地帯を何といいますか。この地帯は、本州の地層や岩石の性質が東側と西側で大きく異なる境界線となっています。(2023年 岩手県公立入試 類似)
1. フォッサマグナ
 2. 中央構造線
 3. 日本アルプス
 4. シベリア高気圧
- 問9 中部地方の統計において、愛知県のように都市化が進み人口が密集している地域では数値が低く、一方で長野県、富山県、福井県、新潟県といった山間部や地方部で数値が高くなる傾向を示す統計項目として、最も適切なものはどれですか。(2019年 大分県公立入試 類似)
1. 人口密度
 2. 第2次産業就業人口の割合
 3. 全人口のうち65歳以上の人が占める割合
 4. 合計特殊出生率
- 問10 岐阜県の白川郷に見られる「合掌造り」の家屋は、屋根の形が手を合わせたような急傾斜になっています。このような独特な建築様式がこの地で発達した理由として、地理的な背景から説明したものと最も適切なものを選びなさい。(2026年 三重公立入試 類似)
1. 冬の積雪が非常に多く、屋根に積もった雪の重みによる倒壊を防ぐとともに、雪下ろしの負担を軽減するため
 2. 山間部で平地が少ないため、屋根の傾斜を急にして建物の高さを出し、居住スペースを縦に広げるため
 3. 夏に発生する激しい上昇気流による雷雨から家屋を守り、雨水を素早く地面に流す必要があったため
 4. 日本海側から吹きつける強い季節風を受け流すことで、建物全体の揺れを抑えて耐久性を高めるため
- 問11 新潟県や富山県といった北陸地方の県における、土地利用の統計的な特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。耕地面積全体に占める「田」と「畑」の割合に着目して答えなさい。(2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある
 2. 耕地面積のうち、田と畑がほぼ50%ずつで、混合農業が盛んである
 3. 都市化が進んでいるため、田の面積は耕地全体の30%以下に留まっている
 4. 果樹園などの畑地利用が中心であり、田の面積は10%未満である
- 問12 中部地方の製造品出荷額に関する統計において、愛知県は日本全国で第1位の規模を誇ります。この愛知県の工業において、出荷額の過半数を占めている主要な産業分野と、その中心的な工業都市の組み合わせとして正しいものを選びなさい。(2025年 兵庫県公立入試 類似)
1. 輸送用機械器具の製造が盛んで、豊田市などがその中心である
 2. 精密機械器具の製造が盛んで、諏訪市などがその中心である
 3. 金属製品の製造が盛んで、燕市などがその中心である
 4. 化学工業の製造が盛んで、四日市市などがその中心である

答え合わせ・解説

問1	答え 2 夏の涼しい気候を利用して、平地での出荷が少なくなる時期にレタスなどを出荷する抑制栽培が行われている。	長野県などの標高が高い地域（高冷地）では、夏の気温が平地よりも低くなる気候特性を活かし、平地では生産が難しい夏季にレタスなどの高原野菜を栽培します。このように、自然環境を利用して収穫時期を遅らせる栽培方法は「抑制栽培」と呼ばれます。促成栽培は高知県や宮崎県などの温暖な地域で行われる手法であり、混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 2 生活に必要な機能を公共交通沿線や中心部に集約させる「コンパクトシティ」の形成	地方都市における人口減少や少子高齢化、郊外化による中心市街地の空洞化（シャッター通り化）といった課題に対し、富山市は「コンパクトシティ」を掲げた政策を行っています。路面電車の環状化は、高齢者や子どもなどの移動手段を確保し、中心部に人を呼び戻すことで、持続可能な都市を目指す重要な施策の一つです。
問3	答え 1 扇状地	山地を流れる急峻な河川が平地に出る地点（谷口）では、勾配が急に緩やかになるため、川が土砂を運ぶ力が弱まります。それにより、砂や小石が堆積して扇状の地形が形成されます。同じ堆積地形でも、河口付近に形成されるものは三角州と呼ばれ、区別が必要です。
問4	答え 1 静岡県	静岡県は、全国の茶の生産シェアの約四割を占める日本一の産地です。二〇一四年の統計データでは、一位の静岡県に次いで二位が鹿児島県（29.4%）、三位が三重県（8.1%）、四位が宮崎県（4.6%）となっており、静岡県が圧倒的なシェアを誇っています。牧之原台地などの広大な土地を利用した栽培が古くから盛んです。
問5	答え 1 かつてのJR富山港線を利用していなかった人が、自家用車からの乗り換えや新規の移動手段として、全体の3割以上も利用するようになった。	富山ライトレールの開業は、路面電車の利便性を活かして自家用車への過度な依存を抑える狙いがありました。実際の利用者の内訳を見ると、旧JR時代の利用者は半分以下であり、以前は自家用車を使っていた層（11.5%）や、新たにその区間を移動するようになった「新規」の層（20.5%）が合わせて3割を超えています。このように、JR富山港線を利用していなかった層を新たに取り込むことに成功した点が、交通政策上の大きな特徴です。
問6	答え 1 栽培面積の大部分で機械化が進んでおり、生産の効率化が図られている	鹿児島県の統計では、栽培面積の約9.5割にあたる広範囲で機械が導入されています。静岡県の導入率が約6割であることと比較しても、鹿児島県は極めて機械化率が高いことがわかります。これは、鹿児島県が後発の産地として、当初から大型機械の使用を前提とした平坦な農地の開発や大規模化を進めてきたという背景に基づいています。
問7	答え 1 台地での茶の栽培	静岡県の牧之原などに代表される、周囲より一段高く上面が平坦な地形を台地と呼びます。この地域では明治維新以降、徳川家の家臣や近隣の農民によって大規模な開墾が行われ、水はけの良さを活かした日本最大級の茶産地が形成されました。
問8	答え 1 フォッサマグナ	ラテン語で「大きな溝」を意味するこの地帯は、日本列島が形成される過程で生じた巨大な溝帯です。新潟県から静岡県を結ぶラインを西の端（糸魚川・静岡構造線）として、本州の地質的な構造を東日本と西日本に大きく分ける重要な境界となっています。
問9	答え 3 全人口のうち65歳以上の人が占める割合	愛知県のような大都市圏は、進学や就職のために他県から若い世代（生産年齢人口）が流入するため、相対的に高齢者の割合が低くなります。これに対し、近隣の長野県や富山県などの地方部では、若者が都市部へ流出する一方で、その地域に留まる高齢者の比重が大きくなるため、高齢化率が高く算出されるという特徴があります。
問10	答え 1 冬の積雪が非常に多く、屋根に積もった雪の重みによる倒壊を防ぐとともに、雪下ろしの負担を軽減するため	白川郷は周囲を高い山に囲まれた山間部にあり、冬には数メートルもの雪が積もる豪雪地帯です。水分を含んだ雪は非常に重いため、屋根の傾斜を45度から60度という急角度にすることで、雪が自然に滑り落ちやすくしています。これにより、家を守るだけでなく、過酷な雪下ろし作業の回数を減らす工夫がなされています。また、この広い屋根裏を活用して、かつては養蚕（かいこを育てること）が盛んに行われていました。
問1	答え 1 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある	北陸地方は日本を代表する米どころであり、特に新潟県などの統計を見ると、耕地面積の大部分を田が占めていることがわかります。具体的には、耕地全体のうち80%以上が田となっており、これは冬の積雪の影響で裏作（冬の間別の作物を育てること）が難しく、米の単作地帯として発展してきた歴史的・気候的な背景が影響しています。
問1	答え 1 輸送用機械器具の製造が盛んで、豊田市などがその中心である	愛知県は自動車工業を中心とした「輸送用機械器具」の生産が極めて盛んで、出荷額は長年にわたり全国1位を維持しています。特に豊田市は、世界的な自動車メーカーの本社や工場が集積する企業城下町として知られています。精密機械は主に長野県、金属製品（カトラリー等）は新潟県の特色であるため、愛知県の特色と正しく区別する必要があります。